

## 研究に関する情報公開

福島県立医科大学放射線健康管理学講座では、南相馬市立総合病院の倫理委員会の承認を得て、下記の研究を実施します。関係各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

2021年10月 福島県立医科大学医学部放射線健康管理学講座 坪倉正治

### 【研究課題名】

南相馬市立総合病院における東日本大震災前後の医薬品需要に関する調査

### 【研究期間】

2021年10月～2024年3月

### 【研究の意義・目的】

2011年3月の東日本大震災発生前後に南相馬市立総合病院を受診した方に関して、医薬品使用の動向を調査し、大規模災害時に求められる医薬品需要の実態を明らかにします。そして、将来起こりうる大規模災害時により迅速な医薬品の供給に役立てます。

### 【研究の対象となる方】

#### ①南相馬市立総合病院を受診した患者さん

2011年3月初旬から翌月4月初旬に南相馬市立総合病院を受診した患者さんを対象に、処方された医薬品の動向をさかのぼって調査します。なお、これらのデータについては、南相馬市立総合病院の薬剤部の調剤データ並びに医事課のレセプトデータから抽出したものを活用しますので、個人を特定できる情報は存在しません。追加で診療録から調査をすることもありません。

#### ②東日本大震災当時に南相馬市立総合病院で勤務していた薬剤師

薬剤師数名を対象にインタビュー調査を行います。これについては事前に書面にて同意を取得します。

### 【研究の方法】

#### ①患者への医薬品使用データ

2011年3月から翌月4月初旬の期間の同薬剤部の調剤記録や医事課のレセプトデータなどを参照し、患者の年齢分布や医薬品の処方量の推移などの情報を抽出し、解析を行います。

・データを抽出した段階で個人情報とは分からないような状態になっております。また、得られたデータは、南相馬市立総合病院から、院外の共同研究機関である福島県立医科大学の坪倉正治に提供され、共同で解析を行います。

・2011年3月1日から4月30日までの受診患者の年代別の人数並びに新患・再診の別の推移。

・3月5日から処方された薬の名称並びに処方数の推移。

・3月12日から処方された薬の薬効別の推移を週ごとにまとめたもの。

・3月12日からの院内・院外処方せんの枚数の推移。

#### ②インタビュー調査

東日本大震災当時を知る当院薬局職員数名へインタビュー調査を行います。インタビューで聴取する内容は以下の通りです

・当時の状況について。

・震災後の薬局員の対応について。

- ・医薬品の発注の様子や、医薬品卸、自衛隊などとの医薬品運搬の様子について。
- ・院内処方、院外処方の状況について。処方日数について。
- ・この経験を踏まえて考えたこと。

**【研究組織】**

福島県立医科大学

研究責任者 放射線健康管理学講座 教授 坪倉正治  
研究分担者 甲状腺内分泌学講座 博士研究員 尾崎章彦  
放射線健康管理学講座 大学院生 澤野豊明  
放射線健康管理学講座 助手 伊東尚美  
放射線健康管理学講座 研究員 趙天辰

**研究代表機関**

南相馬市立総合病院

研究代表者 地域医療研究センター 坪倉正治

**【他の機関等への試料等の提供について】**

提供はありません。

**【本研究に関する問い合わせ先】**

本研究に関する御質問等がございましたら、下記の連絡先までお問い合わせください。他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書及び研究の方法に関する資料を閲覧できます。

〒960-1295 福島県福島市光が丘1

公立大学法人福島県立医科大学医学部放射線健康管理学講座 担当 坪倉正治

電話:024-547-1891 FAX: 024-547-1889

E-mail:tsubo-m@fmu.ac.jp

**【試料・情報の利用を望まれない場合の連絡先】**

試料・情報が当該研究に用いられることについて研究対象者ご本人又は代理人の方に御了承いただけない場合には、研究対象者とはせずに試料・情報の利用、提供をいたしませんので、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも研究対象者ご本人又は代理人の方に不利益が生じることはありません。なお、研究結果が既に医療系雑誌への掲載や学会発表がなされている場合、データを取り消すことは困難な場合もあります。

〒975-0033 福島県南相馬市原町区高見町二丁目54番地の6

南相馬市立総合病院 地域医療研究センター 担当 坪倉正治

電話:0244-22-3181(代表)